

1:25,000 都市圏活断層図 長井盆地西縁断層帯とその周辺

あてらざわ
「左 沢」「長 井」「米 沢」

解説書

鶴岡市

八木浩司

澤 祥

熊原康博

平成 23 年 11 月

村上市

左 沢

山形市

長井市

長 井

小国町

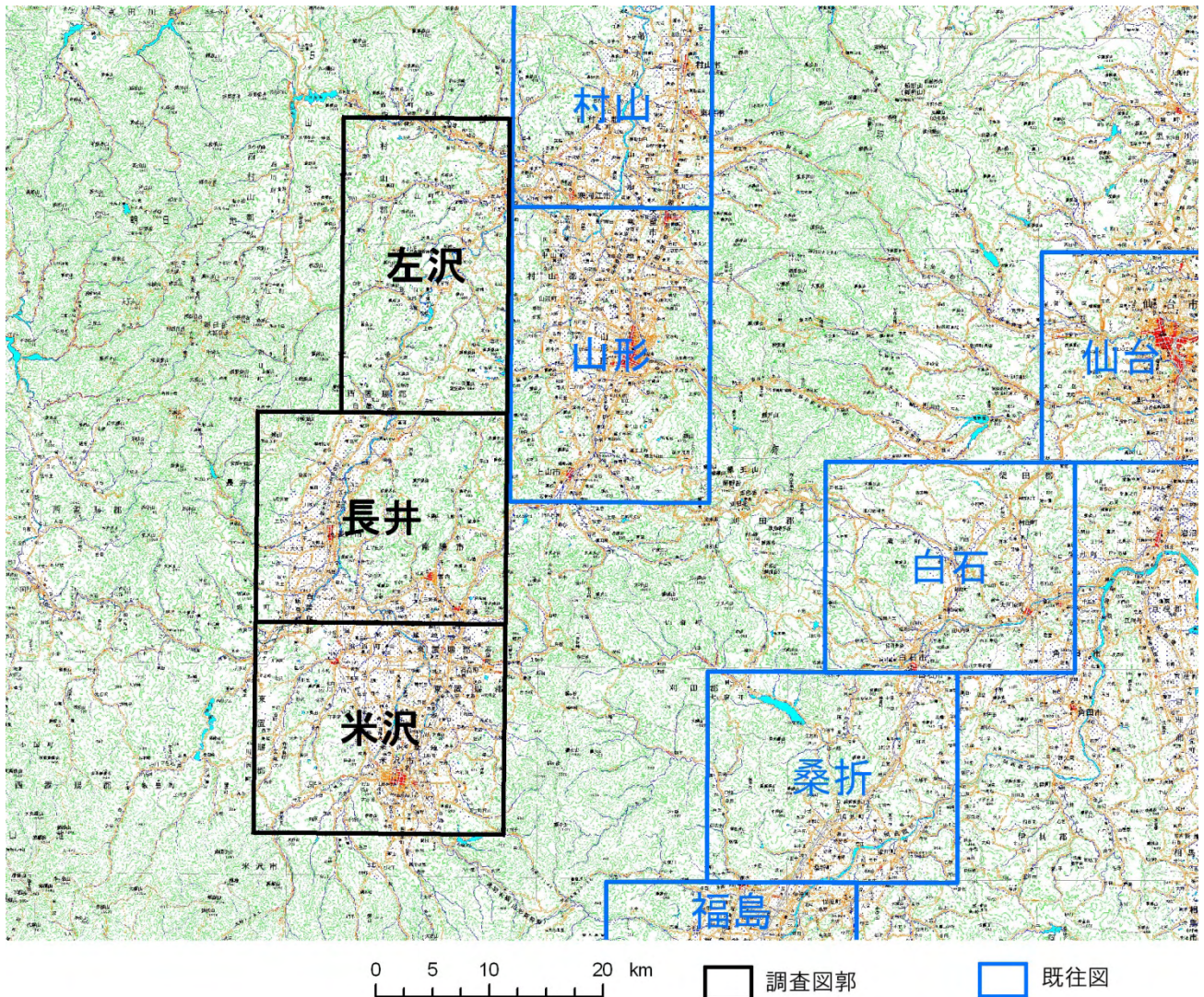
米 沢

米沢市

編集 国土地理院

目 次

1.	はじめに	2
2.	長井盆地西縁断層帯周辺の地形概観および地質	3
3.	「左沢」図幅の特徴	8
4.	「長井」図幅の特徴	12
5.	「米沢」図幅の特徴	14
6.	引用文献	17
7.	使用空中写真・地形図および作成委員会	18



都市圏活断層図作成地域図

1. はじめに

平成 7 年（1995 年）1 月 17 日に発生した兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）を契機に、活断層に関する情報の整備及び公開の必要性が高まってきた。国土地理院では、これに応えるため、地震が発生した場合に甚大な被害が予想される都市域及びその周辺を対象に「1:25,000 都市圏活断層図」を作成している。

図示している活断層は、主に空中写真（縮尺約 1 万分の 1～4 万分の 1）を用いた地形判読により調査し、活断層の研究者と国土地理院が共同で作業に当たった。

この図では「活断層」を最近数十万年間に約千年から数万年の間隔で繰り返し活動してきた跡が地形に表れているもので、今後も活動を繰り返すと考えられる断層としている。このうち、風雨による侵食、堆積や人工的な要因などにより改変されているため、活断層の位置を明確に図示できない区間は破線とし、活動の跡が土砂の下に埋もれてしまっている区間は点線で図示している。

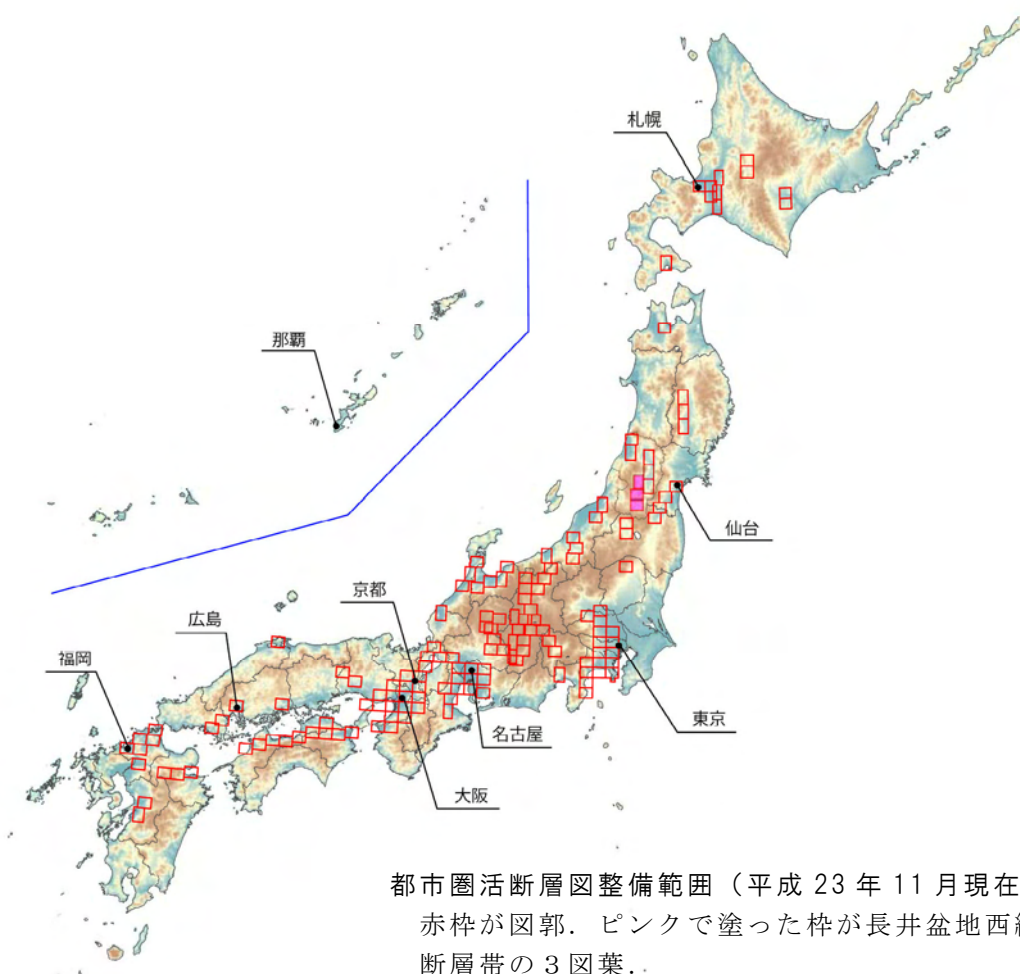
また、活断層の位置のほか、活断層に関連す

る段丘地形・沖積低地・地すべり地形などの第四紀後期（数十万年前から現在）に形成された主な地形も図示している。これにより活断層周辺の地盤状況や、活断層の活動によって地すべりが再活動する可能性のある地域など、防災に役立つ情報を読みとることができる。

都市圏活断層図 1 枚に図示されている範囲は、国土地理院刊行の縮尺 2 万 5 千分 1 地形図 4 枚分相当である。

都市圏活断層図は、平成 16 年度までに三大都市圏、政令指定都市、県庁所在都市及びその周辺を中心として 124 面（約 50,000 km²）が作成され、平成 17 年度以降は、都市域周辺部（山間地域を含む）の主要な活断層について、新たに図示項目を追加し作成されてきた。平成 23 年 11 月現在、計 152 面（約 60,600 km²）が整備されている。

なお、活断層の模式図（逆断層、右横ずれ断層など）、詳しい整備範囲などは、国土地理院のホームページに掲載されている（<http://www1.gsi.go.jp/geowww/bousai/menu.html>）。



2. 長井盆地西縁断層帯周辺の地形概観および地質

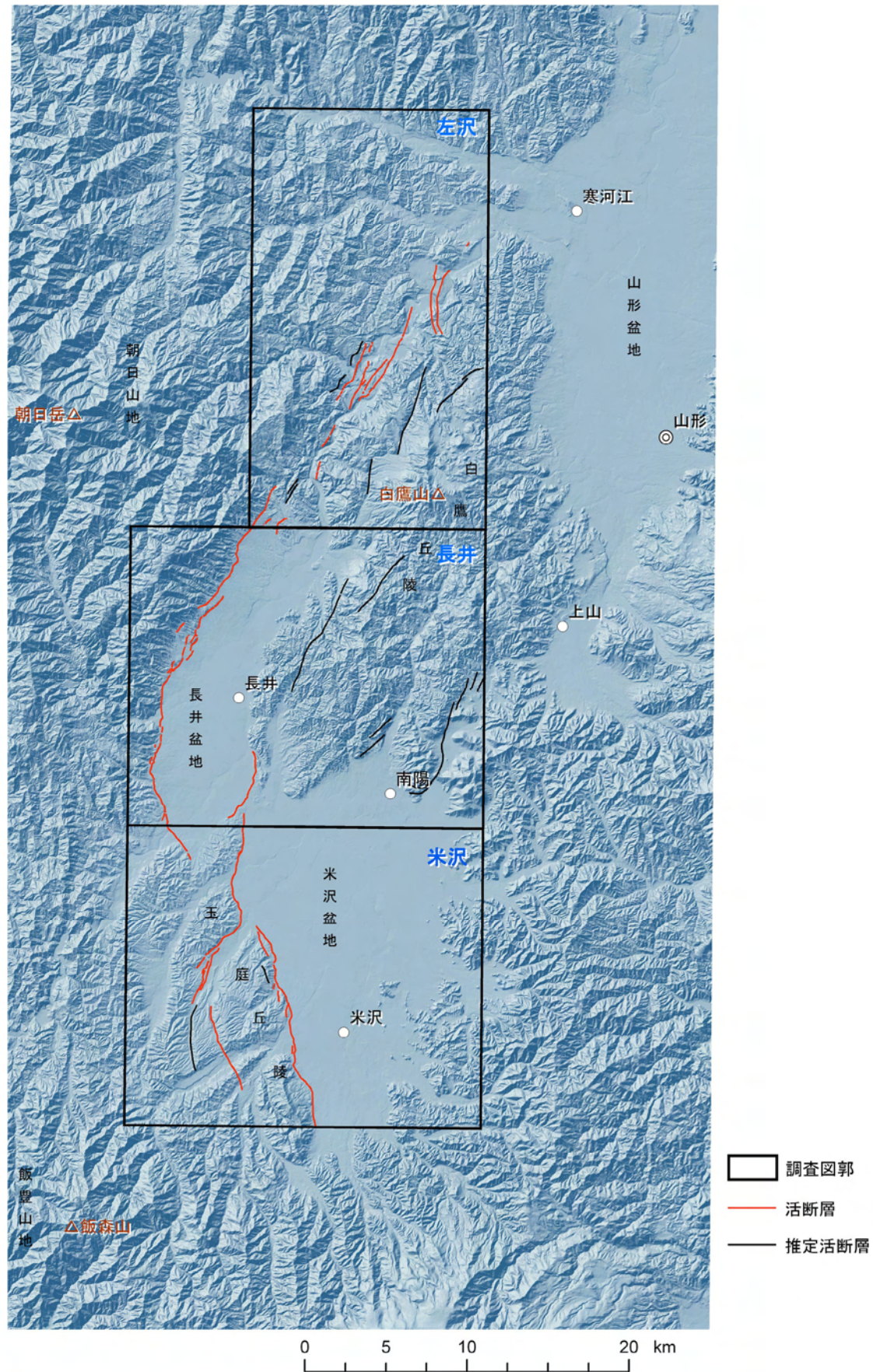


図1 長井盆地西縁断層帯とその周辺地域の地形陰影図。基盤地図情報の10mDEMから作成。